

#編集後記

母の教えたまいし歌



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



表紙の写真は万博公園のコスモス。

僕らの世代では山口百恵さんは憧れのスターでしたので、

コスモスといえば百恵さんの「秋桜（コスモス）」という歌を連想してしまいます。

「秋桜」は、元々コスモスの当て字。それが百恵さんの歌のおかげで一気に浸透したそうです。

百恵さんは、それくらい影響力のあるスーパースターでした。(^^)/

その百恵さんの「秋桜（コスモス）」がヒットしたのは1977年。それはまだ僕が中学生の頃。

今もなお名曲ですが、今聞くと、おそらく当時は全く感じなかったであろう感覚があります。

それは、僕の意識がいつのまにか「親目線」になっているからだと思います。

歌にあるのは、嫁ぐ日を前に縁側で荷造りをしながら交わす母との会話や母親へこみ上げる感謝の思い。

小春日和のおだやかな日。庭では、うす紅色のコスモスが風に揺れている・・・。

んー。いい歌だなあ。今度カラオケで歌おうと。(^^ゞ



中学は坊主頭でした

今月、台風による水害という大きなニュースがありましたが、他にも衝撃を受けたニュースがありました。

10月7日の日経新聞。元より少子化が問題となっている日本ですが、さらに予測より出生数が急減しているという報道です。政府の想定を2年も上回るほど少子化が加速しているとのこと。

少子化の加速は、ますます若者が減っていき、いびつな少子高齢化の進行の加速を意味します。

高齢化による年金や医療といった社会保障の支出が増える一方、生産年齢人口の減少が加速し、国内経済市場が縮小する、つまりは国力の衰退につながりかねない大きな問題です。

出産や子育てをしやすい社会環境の整備は、国も地域も、また会社にとっても急務なのです。

「働き方改革」は、社員のワーク・ライフ・バランスを実現しながら、生産性を維持・向上させる為に仕事の在り方や進め方を見直すことです。

国が主導する「働き方改革」へ反発される中小企業の経営者の声も耳にします。でも20年後、30年後、50年後、子どもや孫たちの世代の礎のために、今こそ意識を変えるときではないでしょうか。



親と子に関する僕が好きな歌は、「秋桜（コスモス）」の他にもあります。

ドヴォルザークのジプシー歌曲集にある「我が母の教えたまいし歌」です。

母がわたしに この歌を 教えてくれた 昔の日

母は涙を 浮かべていた

今は私が この歌を 子どもに教える ときとなり

私の目から 涙があふれ落ちる

(堀内敬三 訳)



ドヴォルザークでおま。

子育てとは、子どもを育てているようで自分もまた育てられているように思います。

僕も、我らの子は血肉を分けた分身であるはずなのに、親の思いどおりにならないことを学びました。^^;

子育てには喜びだけではなく苦悩や葛藤もあります。でもそれはまた自分の親も自分の為に歩んだ道です。

子育てを通じて、母が注いでくれた自分への愛情に改めて気づいたとき涙があふれてしまう。

母が歌を教えてくれた昔に見た母の涙もまた、母が自身の親に思いを馳せていた涙かもしれません。

わが子にそそぐ無償の愛と自身の親への敬いは、「歌」と共に受け継がれていき、そうやって時代はまわっていく・・・この歌曲にはそんな人の一生に対する、普遍的な尊さを感じるのです。

子育てをされているお母さんお父さん、それから子育て予備軍も、みんなみんながんばれ。



がんばれー!